

第3学年英語科学習指導案

日 時 平成29年11月9日(木) 5校時

学 級 3年A組(男子14名 女子15名 計29名)

授業者 教諭 藤 井 望

1 単元名 PROGRAM7 What Is the Most Important Things to You? Sunshine English Course3 開隆堂

2 単元について

(1) 教材観

本単元は、世界中でボランティア活動を行いながら発展途上国を支援し、また途上国のために働く意欲のある人材を育成する取り組みを続ける山本敏晴さんの活動について書かれている。その中で、山本さんが継続して取り組んでいる「お絵かきプロジェクト」の活動を通してアフリカや南太平洋の途上国の現実と、自分の国や自分自身に、夢や希望をもって生きる子供たちが描いた絵に込められたメッセージが書かれている。また、山本さんのような「自立」を目指した活動を通して、国際協力の意義や、私たち一人ひとりに何ができるのかを考えることができる内容となっている。自分自身の夢や希望についても考えさせることが大切である。

言語材料として扱う主格の関係代名詞 who, which, that は、人やものを詳しく説明することができる、後置修飾のひとつである。これらを学習することにより、人物や物事についてより詳しく説明できるようになる。前単元で学習した、現在分詞・過去分詞による後置修飾と関連させながら、文の構造や意味を理解させたい。

最後の単元である Special Project 「卒業に向けて-思いを伝えよう」は、3年間の思い出や自分の思いを書く単元になっており、ここへつながる一つとして自分の好きなことや大切なものについて考えさせることをねらいとしている。

(2) 生徒観

本学年におけるアンケートを見ると、「授業がよく分かる 19% (10人/54人)」「どちらかと言えば分かる 46% (25人/54人)」となっている一方「どちらかといえばよく分からない 16% (9人/54人)」「よく分からない 19% (10人/54人)」と少なくない。

多くの生徒は単語の音読練習やペアでの口頭練習など、ペアでの活動に意欲的に取り組んでいる。また音読テストや ALT とのスピーキングテストなどに意欲的に取り組もうとしているが、音読が難しい生徒もおり配慮が必要である。ペア活動などを活用し、全員が授業に参加できるようにしたい。発言に積極的な生徒は少ないが、分かりやすい発問を心がけ、発言を促していきたい。

さらに、今年度行われた全国学力学習状況調査の生徒質問紙から「いわての授業づくり

3つの視点」に係る項目を見てみると、①「授業の中で目標が示されたか？」の項目の肯定的回答は94%（県94%）、②「授業の最後に学習内容を振り返る活動を行っていたか？」は83%（県81%）、③「自分の考えを発表する機会が与えられていたか？」は83%（県88%）となっている。この結果は英語科だけのものではないが、「話し合い活動」が県と比較すると低い数値になっているので、一斉授業の中で、それぞれの考えや思いを英語で発表したり、それに対してアドバイスをお互いに行ったりするなど、意図的なペアやグループ活動を仕組み、活動させたい。

本学年のNRTテストの調査結果

内容	正答率		全国比
	学級	全国	
1. 聞くこと	53.0	59.5	89
2. 話すこと	52.8	60.6	87
3. 読むこと	60.5	66.9	90
4. 書くこと	36.4	52.0	70

また、4月のNRTテストによると、「書くこと」の領域の正答率が低くなっており、問題別では、助動詞や前置詞などの適語補充の問題や、語順整序の問題の正答率が低くなっている。今回の単元は関係代名詞という語順が複雑な文であるため、前単元で学習した後置修飾の復習を含めながら、繰り返し口頭練習を行ってから「書くこと」につなげる工夫が必要だと考えている。

(3) 指導観

単元のゴールとして自分の大切なものについての紹介文を書く活動をさせたいと考えている。そのために、

- ①文法事項の導入では、教科書の「Speak」と「Try」の例文をモデルとし、十分に口頭練習を行うことで関係代名詞の文に慣れさせたい。その後自己表現につなげたい。
- ②山本さんや発展途上国の子供たちにとって大切なことを読み取り、自分にとって大切なことは何か考えるための資料とさせたい。また取りかかりやすくするために、本文中の表現やその他の使用できる例文などを示したり、ペア学習を行ったりして、全員が取り組めるようにしたい。

3 単元の目標

- ・ペアやグループ活動を通して、お互いに協力して学習しようとすることができる。
【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】
- ・自分の好きなものや大切なものを、関係代名詞を使って紹介することができる。
【外国語表現の能力】
- ・山本敏晴さんのボランティア活動や、生き方・考え方について、本文の内容を理解することができる。【外国語理解の能力】
- ・主格の関係代名詞 who・which・that の意味・用法・文の構造を理解し、それを用いて人

やものを説明することができる。【言語や文化についての知識・理解】

《Can-Do リストとの関連》

書くこと 1) 自分が伝えたい気持ちや考え、人や物について 5～10 文程度のつながりのある紹介文を書くことができる。

4 指導と評価の計画

時間	学習活動	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
1	・単元の目標を確認する ・単元の単語を学習する				・単元の単語を発音できる
2	・主格の関係代名詞 who の用法を理解する ・主格の関係代名詞 who を用い人物を説明する		・関係代名詞を使って人についてクイズを作ることができる		・主格の関係代名詞 who の意味・用法・文の構造を理解することができる
3	・山本氏について知り、支援の在り方について読み取る			・山本敏晴さん活動や考え方について理解することができる	
4 本 時	・主格の関係代名詞 which の用法を理解する ・主格の関係代名詞 which を用い説明する		・関係代名詞を使ってほしいものを紹介することができる		・主格の関係代名詞 which の意味・用法・文の構造を理解することができる
5	・2人の子供の大切なものを読み取り、それに対する自分の意見や感想を英語で書く	・既習事項を用いて積極的に活動に取り組んでいる	・自分の考えや感想を英語で書くことができる。	・途上国の子供たちの大切なものを読み取るができる	
6	・主格の関係代名詞 that の用法を理解する ・主格の関係代名詞 that を用いて絵を説明する		・関係代名詞を使って人やものについて説明することができる		・主格の関係代名詞 that の意味・用法・文の構造を理解することができる
7	・山本氏が大切にしていることを読み取る ・自分にとって大切な物を説明する文を考える	・既習事項を用いて積極的に活動に取り組んでいる		・山本敏晴さんのボランティア活動や、考え方について、理解することができる	
8	・自分にとって大切な物などを関係代名詞を使って紹介する		・自分の考えや感想を英語で書くことができる。		
9	・単元テスト				

5 本時について

(1) 目標

- ・ 関係代名詞 which を使って自分のほしいもの・好きなものを紹介できる
- ・ 関係代名詞 which の使い方を理解することができる

(2) 評価規準

評価の観点	「概ね満足」と判断される状況 (評価方法)	支援を要する生徒への手立て
外国語表現の能力	関係代名詞 which を使って自分のほしいもの・好きなものを紹介できる【観察・ワークシート】	机間指導による個別支援や、ペア活動での教え合いを行わせる
言語や文化についての知識・理解	関係代名詞 which の使い方を理解している【ワークシート】	机間指導で理解できるよう支援する

(3) 研究との関わり

○授業場面での学習サイクルの指導

授業の初めに帯活動として、単語のインプット、トピックを決めた会話練習、復習として単語や Basic Dialog の書き取りテストを行っている。課題設定は単元のゴールに向かって必要であると生徒がわかるように設定するように心掛けている。本時においては、最初に単語の復習を行わせることで、語彙の定着を図りたい。また課題設定の場面で、主格の関係代名詞 which を使った文を生徒に聞きとらせ、今日の学習のゴールをイメージさせたい。ペアでの練習を取り入れることで、何度も繰り返し発音練習に取り組ませたい。

○学びを振り返るためのシートの工夫

毎時間、振り返りシートに文章表記させている。授業で取り組んだ内容や課題を見直したり、まとめたりすることで、授業の内容確認を促すことができると考える。書かせる内容を吟味し、良いものを紹介するなどして、課題に迫る内容を書けるようにさせたい。

○学習習慣・学習内容の定着を図るための学習サイクルの指導

その日の復習問題を宿題としてとりくませたり、単語テストや Basic Dialog の書き取りテストを継続して取り組ませたりしている。今後、日常的な話題や社会的な話題に対しての説明文や自分の考え、気持ちを書く活動を自主的に取り組めるような宿題内容の工夫が必要である。本時においては、次時に Basic Dialog の書き取りテストを行う指示を出し、紹介文作成と練習問題を課題として提示したい。

(4) 本時の展開

段階	学習内容	生徒の活動	○指導上の工夫・支援 ◎評価
導入 10分	1 復習 ① 単語インプット ② whoを使った文の復習 2 課題設定	<ul style="list-style-type: none"> ・単語シートを使ってペアで単語チェックを行う。 ・前時に作った who を使ったクイズに答える ・教師が話すクリスマスにほしいものが何かを聞きとる。今日の課題を理解し who との違いを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○関係代名詞の文の語順を確認する ○生徒とのやり取りからクリスマスを想起させる ○授業の流れを示す
	which を使ってクリスマスにほしいものを紹介しよう		
展開 35分	3 課題追究 ① 音読練習 8分 ② Listen 2分 ③ Speak 5分 ④ 表現活動 20分 ・自力解決 ・学び合い	<ul style="list-style-type: none"> ・Basic Dialog の内容を確認し、音読練習を行う (全体、ペア、個人) ・関係代名詞と先行詞を確認する ・語順を確認する (which+動詞) ・ペアで練習 ・モデル対話を練習する ・例文を見て、自分のほしいものについて考えメモをとる ・隣ペアとメモを見ながら紹介し合う ・分からないところを教え合いながら紹介文をワークシートに書く ・別なペアで紹介しあう ・数名が発表する 	<ul style="list-style-type: none"> ○スムーズに読めるように繰り返し練習する ○数名に言わせてチェックする ○練習したことを活用するよう促す ○読み方を確認する ◎関係代名詞 which を使って相手に物を紹介できる

<p>ま と め 5 分</p>	<p>4 振り返り ① 振り返り記入 ② まとめ ③宿題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習を振り返り、わかったこと、わからなかったこと、できたことなどについて自分の言葉で説明する ・絵を見せて、which を使って説明できるか確認する ・本時の復習として練習問題をやる ・Basic Dialog を練習してくる 	<ul style="list-style-type: none"> ○本時の評価と次時について話す ○振り返りを紹介する
----------------------------------	--	---	---